

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 3月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200700		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	グループホーム縮景園		
所在地	広島市中区上鞆町5番17号 (電話) 082-511-1121		
自己評価作成日	平成27年 3月 10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200700-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200700-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年 3月 18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

広島市内の中心部に位置し、近くには三越・福屋などのデパートが多く、また広島を代表する名勝縮景園もすぐに歩いていける距離にあり、散策や交通、買い物に便利な立地にあります。理念である『明日の事を思い煩うことよりも、今日一日を輝いて』を掲げ、外部及び施設内研修にも積極的に参加し、より良い支援ができる環境作りをしております。健康管理の面でも母体が病院で、院長による往診が週3回実施されておりますので、病院との連携の強化にも日々努めており、入居者様・家族様に安心していただける体勢作りを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

広島の一等地にあるグループホーム縮景園は、県内有名な庭園である「縮景園」のすぐそばにあり、散策コースにもなっている。一昨年(2015)の4月に開設された鉄筋5階建てビルの2・3階部分を活用しているが、4・5階部分も同様に入居の準備は整っている。認知症アドバイザーの資格を持つ統括責任者を中心に若いスタッフが、利用者によりやさしく寄り添いサポートしている。地域に根ざしたホームを目指しており、これから社会は、急激に高齢化に向けて進むなか、地域の高齢者が気軽に集えるサロンを計画中である。ホームの理念である「明日のことを思いわずらう事よりも、今日一日を、輝いて」の言葉にもあるように希望のある明るい未来に向け笑顔で過ごせるよう心掛けておられるホームである。

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を毎朝唱和し、職員一同共有し、常に頭に入れ、実践につなげている。	理念である「明日のことを思いわずらう事よりも、今日一日を、輝いて」を掲げ、朝の申し送りの時に皆で唱和し、又、1か月に1回のユニット会議でも、時々、話し合う機会を持っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域とのつながりが難しい中で、包括センター様为中心となり認知症地域連携会議を行い、少しずつでも地域の方々と交流を持てるように色々な方面に参加をする。	地域との付き合いが友好なものになるよう日頃から、近隣の清掃は欠かさないよう心掛けている。又、町内会への加入も重ねてお願いし、申し込んでいる。	地域交流の場として、サロンの立ち上げ準備をされている。近隣地域の方も楽しみにされており、開設が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎日道路の清掃を行っており、少しずつではあるが、地域に貢献できるよう、努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の包括センター民生委員、入居者様のキーパーソンに出席していただき、2ヶ月に1回の報告や入居者様の日々の生活のあり方についてお話をさせていただき、意見交換をさせていただいてサービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議をされ、参加者は、包括支援センター職員、民生委員、利用者家族、統括責任者、介護職員等で、ホームの行事の実施や近況報告を行い、地域の情報等を参加者からも意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議に介護保健課よりも出席されるよう参加依頼をされる事が期待されます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市とは日頃より連絡を密に取らせていただきながら、事業所のケアサービスの取組み等を報しながら、良い関係である様に取り組んでいる。	市担当課には、よく出向くようにして連絡を取り、実情等、意見やアドバイスを頂いたりして質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者が研修に行って施設内研修を行い、身体拘束ゼロを目標にして職員と話し合いをしながら取り組んでいる。	ビルの玄関は、テンキー仕様で、施錠されているが、安全面において家族の了解を頂いている。身体拘束の弊害は、職員全員で理解され、研修を行い拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と並び、虐待に関しても常に職員間で意識統一・共有し、言葉遣いをはじめ、虐待防止に努めている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>今後学習する機会を持ち、必要時に活用、また支援できるようにする。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約については十分に説明を行い、理解・納得していただいた上で同意の署名・押印をいただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族様が来られた時は近況等話し、意見や要望を伺っている。それらの要望を今後も運営に反映させる様に努める。</p>	<p>家族からの要望として、「運動させてほしい」との意見があり、ラジオ体操したり、音楽をかけ歩行訓練したり、ランニングマシンを使用される方もありと積極的に意見を聞き運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者・スタッフに話しやすい環境であり、コミュニケーションを日頃からしっかりとれるように心掛けている。また、要望にもできるだけ応えられる様にしている。</p>	<p>申し送りやユニット会議等でスタッフから意見や提案が出され、検討して出来る限り運営に反映させるようにつめている。(テレビをリースにする等)</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務1年以上の職員に対しては年に1度リフレッシュ休暇が2日取れ、十二分に休養できるように職場環境に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人職員は勿論のこと、職員一人一人とコミュニケーションを取りつつ、力量の把握に日々努めてり、研修等にも積極的に参加するよう勧め、スキルアップするようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修等により、以前より同業者との交流が増え、今後もそういう研修参加を増やし、サービスの質の向上に努める。</p>		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	いつも声掛けをし、心配りに気を付けており、職員間で情報交換をし、信頼関係を築けるようにいつも心掛け、本人の安心を確保し、コミュニケーションを深くしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人様と同様に家族様の要望に答えられるよう、しっかりと要望をお聴きし、本人と家族が安心できるよう関係作りをしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族から話を聴き、必要とされる支援が出来るよう管理者・ケアマネージャー・ユニットリーダー・職員がミーティングを密にし、統一ケアに努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご家族より長い時間を過ごす疑似家族ですが、本当の家族のように温かく常に心配りをしながら、共に生活をし支え合えるような関係作りを努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様の要望を聞きながら、できるだけ要望に答えられるように支援し、本人共々関係を築いていけるよう努める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの馴染みの方が来られた際にはゆっくり話をさせていただき、関係が途切れないように支援に努めている。	利用者の元生徒さんが来られたり、友人に手紙を出されたりして、これまでの関係が途切れないよう支援されている。又、いきつけの美容院等にも行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤独にならないよう、常に声掛けを行っている。性格・身体の状態等により食事の席は決めているが、利用者同士の大きなトラブルはない。利用者同士の関わり合いや支え合いをしていけるよう支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も相談・支援できる体制を整えており、いつでも来ていただけるように努めている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の声掛けにて、思いや要望・意向などを聞くよう心掛けています。その伝達が困難な方も職員同士で話し合いながら、できるだけ本人本位に検討する。	利用者一人ひとりの良好な過ごし方やその方の意思をくみ取るように努めている。(読書、刺し子、歌を聞く等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者への声掛け等や家族様からの情報により、日々生活環境や一人一人の暮らし方を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活の中で孤独にならないよう声掛けをしながら心身状態を把握し、現状に把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の担当を決め、ケアマネージャーの力を借りながら、職員の意見等を踏まえつつ介護計画書を作成している。	本人や家族から意見・要望を聞き、毎月モニタリングをして、統括責任者、ユニットリーダー、計画作成担当者等、交えながら、本人本位に沿った目標をたて、最低6ヶ月に1回は、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や申し送りを入居者様の日々の情報を細かく把握し、介護計画の見直しをする時の参考にする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時その時の状況を把握しながら、職員が集まり、皆で相談・検討し、柔軟な支援やサービスに取り組めるようにする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し、入居者様が暮らしを楽しむ事ができるように支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体であるワカサリハビリ病院より週3回のペースでDr.の往診がある。本人・家族希望の医療機関への受診は家族対応になっているが、情報提供はしっかり行い、適切な医療が受けられるよう、支援している。	提携病院から、週3回の往診があり、利用者一人ひとりの適切な医療支援、健康管理が行われている。又、かかりつけ医の受診は、家族対応で行っている。	

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	少しでもいつもと違う事があれば看護師に報告をし、日常生活を支援する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院された方には面会に行き、病院関係者と情報を共有し、出来るだけ早期に退院できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時や入居時等に随時施設長より家族に説明を行い、重度化した場合はすぐDr.に報告し、ご家族に十分説明しながら希望される様に支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けては、契約時に説明して理解してもらっている。終末期においては、家族の意向を確認し、出来る限りの対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し、説明を行っている。今後も重点的に初期対応等の実践力を職員全員が身につけていけるように努めていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、火災避難訓練を行っている。地震・水害など、多岐にわたる訓練も必要なので今後も行っていく。また、地域と協力体制を築いていける様に努める。	東洋防災の指導の下、年2回、火災避難訓練を行っており、職員と共に確認をしている。	年に1回は、消防署が立会いの下、避難経路等を確認し、避難訓練を行うことが望まれます。又、運営推進会議の日に合わせ地域の方にも参加してもらい協力体制を築かれる事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや会話、言葉掛けには十分気を遣うようにしており、「親しき仲にも礼儀あり」をモットーにしており、個人情報取扱について同意書を交わしている。	プライバシー保護に対する意義や理解を職員全員が共有しており、その人に合った言葉かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で思い・希望を聞くように声掛けを行っており、自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合で業務優先になる事の無い様、日々の生活スタイルを崩さず、一人一人のペースに合わせる声掛けを行いながら支援している。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で服を選べない方には職員が季節に合った服を選び、その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備や片付けを手伝ってくださる入居者様もいらっしゃる。時には入居者様のリクエストに応えたものを一緒に料理し、一緒に食べながら、食事を楽しめるように支援している。	食事の準備や盛り付け、片付け等、出来るところを職員と一緒にやっている。誕生日には、ケーキ作りをしたり、たこ焼きを手作りする事もある。味付けは良好と評判である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様一人一人の状態を把握しながら習慣や嗜好に沿ったものをなるべく提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人一人に合った口腔ケアを話し合い、毎食後実施するように声掛けをし、支援を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	紙パンツ使用の入居者様の排泄のパターンを把握し、トイレにて排泄していただいて、失敗されないよう声掛けをし、しっかり支援を行っている。	排泄チェック表で個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導をして、排泄自立に向けた支援を行っている。利用者一人ひとりの羞恥心や不快感にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量をしっかりチェックし水分摂取に気を付けているが、便が3日間ない場合はDr.の指示を得て排便コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	自宅での入浴と同様、ゆっくり入浴していただけるように声掛けをし、洗身(背中はず)している。いつも喜ばれるような入浴支援をしている。	週2回、利用者の身体状況に応じて、適切な入浴支援が行われている。入浴困難な方には、職員2人体制で、ゆったりした入浴介助を行っている。状態によっては、足浴をして、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの習慣をできるだけその人のペースで毎日をごとじて頂き、安眠ができるよう日々支援を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないよう、施設が薬を管理している。朝・昼・夕の服薬時は日付・名前・朝昼夕と大きな声で入居者様と職員双方が確認しながら服薬している。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	昔のDVDをリクエストされ、若い頃を思い出されたり楽しかった事などを談話されたり、日々の生活の中に元気で笑顔のある支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一年を通して暖かい日には縮景園に散歩に行ったり、近くのスーパーに買い物に行ったりして、楽しく外出している。	年間を通して、縮景園を散策場所とし、利用者に喜ばれている。利用者の希望や体調に応じて、散歩、買い物に1対1で、対応を行っている。母体であるワカサ病院へ出かけ合同で、敬老会や落語会に参加したり、野球観戦にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	近くのスーパーに行き、欲しい物を購入し、ご自分で支払をされたりして楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話を掛ける支援を行い、手紙のやりとりも支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは入居者様にも手伝ってもらいながら清掃を毎日行っている。ボードにはレクリエーションをした時の写真を飾り、入居者様だけでなくご家族の方にも、入居者様の日々の楽しいひと時を過ごしていただいている様子を見ていただけるよう心掛けている。	リビングルームには、落ち着いた雰囲気のあるテーブルや椅子が配置しており、ゆっくりとした時間を過ごされている。日曜日には、DVDを借りて来て、昔懐かしい映画を見て楽しんでおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話をされる方は丸テーブル、TVを見たい方やゆっくりされたい方は大きいテーブル等、食事時以外は好きな所に座っていただけるように工夫してテーブルやイスを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には洗面所・タンス・ベッド・布団が完備されており、ご自分の使い慣れたものを居室に置いたりして、居室でも毎日楽しく気分良く生活出来るように工夫している。	居室には、使い慣れた馴染みの物の持ち込みを依頼して、(仏壇や家族写真等)利用者が住み替えによる不安やダメージを最小限にするよう配慮している。本人が、居心地よく過ごせる空間作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	どこに何があるか、自立した生活が安心して送れるように職員や家族と相談しながら工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム縮景園

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム縮景園

作成日 平成 27年 3月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域とのつながりを作る	町内会、包括センター及び民生委員の方々の協力を得、交流が持てるようにする。	サロンを開設し、地域の皆様の交流の場をもって、充実した交流を持つようにする。	12ヶ月
2	35	防災対策として、火災訓練しかしていない	利用者が避難できる方法を全職員が身に付け、防災対策を充実させる。	火災だけでなく、地震も想定した災害対策を実施する。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。